

# 東海防衛だより

2018年春号



## 東海3県の自衛隊の動き

- ◆平成29年度伊勢湾掃海訓練

## 東海防衛支局の取り組み

- ◆平成29年度近畿中部防衛施設地方審議会
- ◆平成29年度東海防衛支局管内部隊等連絡調整会議
- ◆防衛施設周辺対策事業の紹介

## 東海3県の防衛産業・技術基盤

- ◆リコーエレメックス株式会社（愛知県岡崎市）

\* NHK受信料助成の制度見直しについてお知らせ \*

「伊勢湾掃海訓練を実施中の掃海艇」

# 平成29年度伊勢湾掃海訓練



展開して前進する掃海艇

平成30年2月1日から10日までの間、伊勢湾の松阪港沖約10kmに設定された訓練海面において、全国の掃海部隊から艦艇16隻、掃海・輸送ヘリコプター2機、隊員約770名が集結し、海上自衛隊による機雷戦訓練が実施されました。

この訓練は、機雷の除去・処理や敷設を行う能力の維持向上を図るため、日本沿岸の海域の適地を選定の上、毎年度行われているものです。伊勢湾での訓練は、近年では、平成22年度以降7回目の実施となります。

伊勢湾における訓練海面は、その特性として、①必要な広さ（約60km<sup>2</sup>）の海面が確保できる ②適切な水深（約40m以内）が確保できる ③海底に魚礁等の障害物が少ない ④冬場における気象・海象の変化がある（うねりは高くないが風・波の変化が激しい）などのことから、機雷戦訓練に非常に適した海域です。

海上自衛隊は、現在、伊勢湾を含め全国4か所で機雷戦訓練を行っておりますが、伊勢湾における訓練は、年度を締めくくる総括的なものとして、海上自衛隊にとって極めて重要な訓練と位置付けられています。

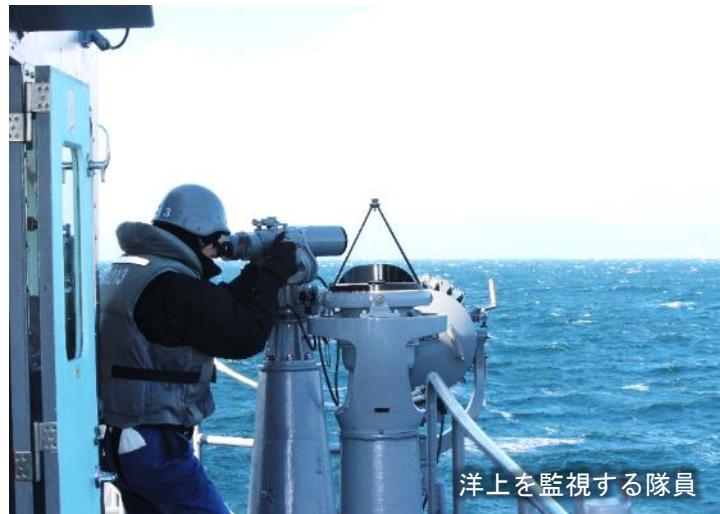
また、伊勢湾での機雷戦訓練は、愛知県及び三重県の多くの漁業関係者や地元自治体の皆様のご協力の下に成り立っています。伊勢湾で機雷戦訓練を実施するに際して、その訓練の間、伊勢湾周辺の漁業者の皆様の操業制限を行うこととなります。そのため、愛知県、三重県各漁業協同組合連合会や訓練設定海面に近い地元の各漁業協同組合の皆様方から、伊勢湾における訓練の必要性、重要性に対するご理解を得た上、訓練海面の設定に同意をいただくことが不可欠となっています。

東海防衛支局は、今後とも漁業関係者をはじめとする皆様方の御理解、御協力を得つつ、伊勢湾での機雷戦訓練を継続的に実施できるよう努めてまいります。

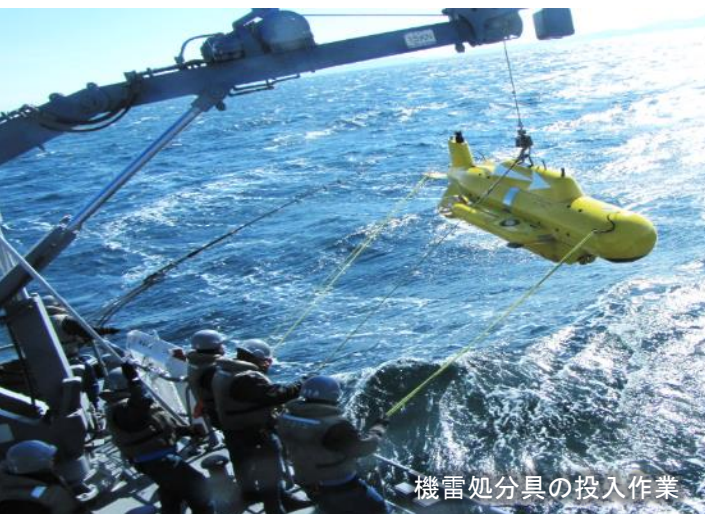




訓練機雷の処理



洋上を監視する隊員



機雷処分具の投入作業



掃海・輸送ヘリコプターによるヘローカスティング※

※ヘリから海上に着水し、浮遊機雷を除去

## 掃海隊群司令のコメント

## ～伊勢湾機雷戦訓練を終えて～



掃海隊群司令  
海将補 白根 勉

本年2月1日から10日までの間、伊勢湾の松阪港沖にて、海上自衛隊の艦艇16隻、航空機2機、隊員約770名が機雷戦訓練を実施しました。訓練の実施に際しては、愛知県、三重県の地域の皆様や漁業協同組合等の方々のご理解、東海防衛支局及び三重地方協力本部の全面的なご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

機雷戦部隊の訓練は、その特性から沿岸部の水深の浅い海域が適しており、伊勢湾は我々にとって非常に貴重な訓練海域です。また、本訓練は年度最後の機雷戦訓練であり、最終的な仕上げの訓練として極めて重要です。強い北風が卓越する中での訓練でしたが、各部隊とも持ち得る実力を最大限に発揮し、更なる練度の向上につなげることができました。

来年度も地域の皆様や漁業関係者の方々にご理解をいただき、伊勢湾での機雷戦訓練を継続したいと考えています。今後ともご支援、ご協力の程よろしく願いいたします。

# 平成29年度近畿中部防衛施設地方審議会

平成29年12月5日、兵庫県神戸市に所在する海上自衛隊阪神基地隊において、平成29年度近畿中部防衛施設地方審議会が開催されました。

当日は、会長の選出が行われ、委員の互選により後藤武夫委員（「後藤・鈴木法律事務所」弁護士。名古屋市）が会長に再選されました。会長は就任挨拶の中で、本審議会が重要な責務を担っていること、今回の視察が委員一同の防衛に関する知見を深める上で有意義であることなどに言及されました。

この後、近畿中部防衛局からは、管内の漁業補償の現状と課題、周辺対策事業などについて、東海防衛支局からは、伊勢湾掃海訓練をテーマに、部隊の任務・訓練の必要性・訓練海面の設定などについて、それぞれ説明を行いました。

審議会を終えた各委員は、入港中の掃海艇「なおしま」を見学され、その後、交通艇により神戸港内を視察されました。

## Keyword

### 防衛施設地方審議会

防衛施設地方審議会は、防衛省組織令（昭和29年政令第178号）に基づき、全国8か所にある地方防衛局にそれぞれ置かれている諮問機関です。この審議会は、地方防衛局長からの諮問に応じて、自衛隊又は駐留軍の使用する施設等に係る不動産等の取得額等に関する事項、漁船の操業制限等による損失の補償額に関する事項について、同局長に答申する役割などを担っており、その委員は、学識経験者の中から地方防衛局長が任命します。

近畿中部防衛施設地方審議会は、近畿中部防衛局に置かれており、弁護士、大学教授等9名（平成29年12月現在）の有識者で構成されています。



藤代近畿中部防衛局長の挨拶



東海防衛支局施設補償管理課長による説明



会長に再選された後藤委員



掃海艇「なおしま」を見学中の各委員



## Column 1

### 近畿中部防衛局と東海防衛支局

近畿中部防衛局は、防衛省の地方出先機関で、近畿中部2府10県（右図参照）を管轄する防衛行政全般の地方拠点として置かれています。

このうち東海防衛支局は、東海3県を管轄し、近畿中部防衛局の所掌事務の一部を分掌しており、近畿中部防衛施設地方審議会においては、当支局が管轄する業務の説明を行うなどしています。



青・・・東海防衛支局の管轄地域  
黄・・・近畿中部防衛局の管轄地域

## Column 2

### 審議会の会場となった阪神基地隊

海上自衛隊阪神基地隊は、大阪湾、紀伊水道等海域の防衛及び警備、艦艇及び航空機に対する基地後方支援、航路啓開及び海中爆発物の除去及び処分などを任務としています。

隷下部隊は、船体磁気の測定（調査）を行う仮屋磁気測定所（兵庫県淡路市）、潜水艦に対する支援等を行う由良基地分遣隊（和歌山県由良町）、掃海艇「なおしま」「つのしま」を所有する第42掃海隊で編成されています。

また、阪神地区における防災拠点にもなっています。



掃海艇「なおしま」



掃海艇「なおしま」「つのしま」

## 平成29年度東海防衛支局管内部隊等連絡調整会議

平成29年12月1日、東海防衛支局において、中部方面総監部、各駐屯地・基地及び地方協力本部の担当者が参集し、「平成29年度東海防衛支局管内部隊等連絡調整会議」を開催しました。

この会議は、当支局において実施している各種施策の内容、また、管内の各駐屯地・基地等が抱えている諸問題について、当支局と管内の駐屯地・基地等双方において周知・理解を深め、より一層の連携強化を図るために毎年度当支局で開催しています。

会議では、当支局から、周辺対策事業及び地方協力確保事務などについて、部隊側から、基地等が抱えている諸問題などについて、それぞれ説明を行いました。質疑応答では、部隊側から、基地・駐屯地毎の周辺対策事業の内容や、関係自治体へ白書説明を行った際の反応について質問などがあり、活発な意見交換が行われました。

また、会議終了後、各駐屯地・基地等へアンケート調査を行った結果、「周辺対策事業の具体的な話を多くしてほしい」、「このような会議は顔の見える仕事でとても有意義である」、「支局の業務内容が部隊の任務や業務の遂行に欠くことができないものであり、自衛隊と地域社会の架け橋となっていることが改めて認識できた」などの意見が寄せられました。



倉内支局長の挨拶



管内部隊等連絡調整会議の様子

### Column

#### 駐屯地と基地の違い

東海3県には、自衛隊の部隊等が所在する施設として、5か所の「駐屯地」と2か所の「基地」があります（右頁参照）。

陸上自衛隊が所在する施設は「駐屯地」と称し、航空自衛隊が所在する施設は「基地」と称することが自衛隊法施行令で定められていますが、何故、陸自が所在すると「駐屯地」となり、空自が所在すると「基地」になるのでしょうか？

その違いは、陸自と空自の戦い方の違いに由来します。

陸上の部隊は、各種事態が発生して対処行動を行う場合、平時に所在している拠点から行動する地域に移動・展開し、その先々に拠点を構えて任務を遂行するのが基本です。「駐屯地」の「駐」という文字は「一定期間とどまる」ことを意味し、「屯」は「屯する（たむろする）」と読み、「1か所に集まる」ことを意味します。すなわち、「駐屯地」は、平時の間、そこに部隊がとどまり集まっている場所であり、有事となった際は、戦闘部隊は出動してしまいます。

これに対し、航空戦力を主体とする空自については、滑走路やレーダーサイトなど、活動の拠点は有事になっても固定されています。このように航空部隊の所在する施設は、活動の土台、基（もと）となる場所として「基地」と称されるわけです。

なお、所在する部隊等が小規模な施設については、分屯地（陸）・分屯基地（空）と称され、最寄りの駐屯地・基地の一部となっています。東海3県には、分屯地が1か所、分屯基地が3か所あります（右頁参照）。

東海防衛支局管内の駐屯地・基地等



**岐阜基地**

(岐阜県各務原市)

航空機の部品の調達等を行う第2補給処、航空機やミサイル等の試験を行う飛行開発実験団、弾道ミサイル防衛を担う第4高射群等が所在しています。飛行場開設から100年を超え、国内では現存する最古の飛行場を有しています。



**岐阜分屯地**

(岐阜県各務原市)

岐阜県に唯一存在する陸上自衛隊であり、主に、陣地の構築を行う第369施設中隊等が駐屯しています。守山駐屯地の分屯地です。



**小牧基地**

(愛知県小牧市)

名古屋空港に隣接する基地であり、PKO活動で海外でも任務を遂行してきた第1輸送航空隊、空飛ぶICU(集中治療室)とも呼ばれる機動衛生ユニットを擁する日本唯一の航空機動衛生隊等が所在しています。



**春日井駐屯地**

(愛知県春日井市)

第10師団隷下部隊への兵站・衛生支援を行う第10後方支援連隊等が駐屯しています。



**高蔵寺分屯基地**

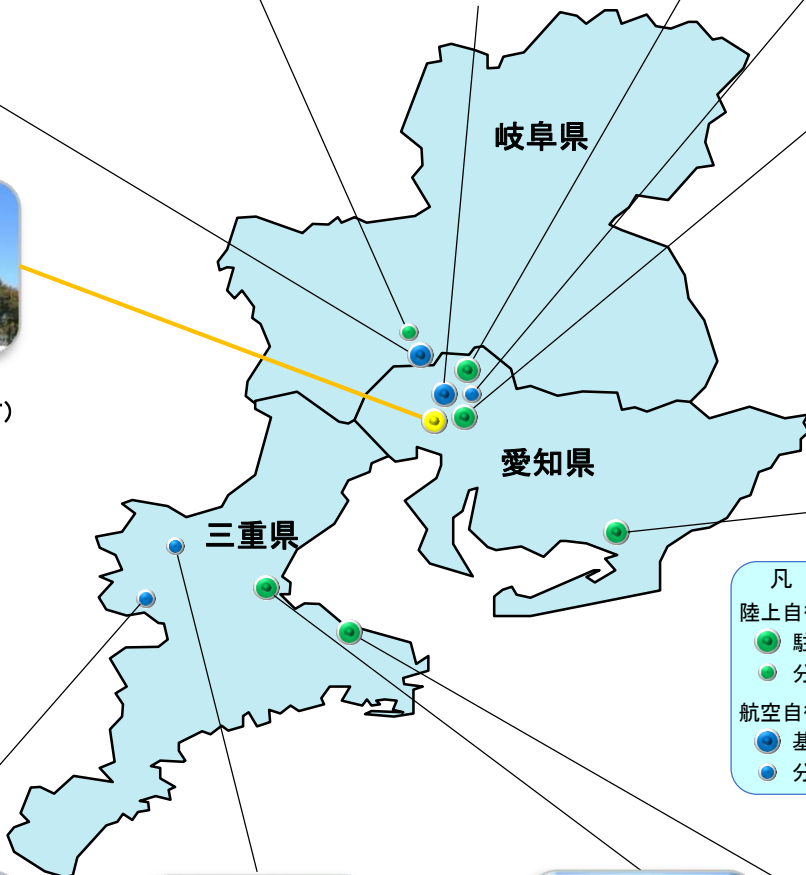
(愛知県春日井市)

弾薬の保管管理等を行う第4補給処(入間基地)高蔵寺支処が所在しています。なお、施設としては岐阜基地の一部となっています。



**東海防衛支局**

(愛知県名古屋市)



**守山駐屯地**

(愛知県名古屋市)

東海・北陸6県の防衛・警備及び災害派遣時の中枢となる第10師団司令部をはじめ12個の部隊が駐屯しています。



**豊川駐屯地**

(愛知県豊川市)

155mmりゅう弾砲(FH-70)を装備する第10特科連隊等が駐屯しています。



**白山分屯基地**

(三重県津市)

パトリオットPAC-3を装備した第4高射群第14高射隊が所在しています。第4高射群司令部が所在する岐阜基地の一部となる施設です。



**笠取山分屯基地**

(三重県津市)

弾道ミサイルをも探知する警戒監視レーダーが配備された中部航空警戒管制団第1警戒群が所在しています。中部航空警戒管制団司令部が所在する入間基地(埼玉県狭山市)の一部となる施設です。



**久居駐屯地**

(三重県津市)

三重県全域の防衛・警備及び災害派遣を任務とする第33普通科連隊等が駐屯しています。



**明野駐屯地**

(三重県伊勢市)

三重県唯一の飛行場を有し、大規模災害時の重要拠点です。陸自ヘリパイロットの養成等を行う航空学校、第5対戦車ヘリコプター隊等が所在しています。



# 防衛施設周辺対策事業

## 柿沢地区学習等供用施設

東海防衛支局は、平成28年度に航空自衛隊岐阜基地に関連する防音助成事業として、各務原市が実施する柿沢地区学習等供用施設の改修に約3千7百万円の補助を行いました。

本施設は、平成4年度に建設されましたが、建物や設備の老朽化が著しかったことなどから、空調機の取替工事や屋上防水工事を実施しました。また、利用者の利便性を考慮し、玄関スロープの設置、トイレの手摺付洋式トイレへの改修なども行いました。

現在では、以前よりも快適な環境でサークル活動や勉強会が実施されています。



### 施設の利用状況



### 改修後の施設



### 利用者の声

玄関やトイレの段差がなくなって、バリアフリーになり、とても安心して使えます。

エアコンの調子もよくとても快適で、照明や壁、天井もきれいになり、とても明るい空間になりました。

### 市担当者の声

柿沢ふれあいセンターは建設後24年が経過し、老朽化が進んでいました。特に空調設備は型が古いため修理もままならず、利用者に大変不便をかけていました。今回、空調設備改修をはじめ、トイレ改修やバリアフリー化など全面的に改修工事を行うことができ、利用者から大変感謝されています。今後も沢山の方に利用していただき、更にコミュニケーションの輪を広げていただければと思います。



各務原市マスコットキャラクター「ららら」



## 各務原市ホッケー場

東海防衛支局は、平成28年度に航空自衛隊岐阜基地に関連する特定防衛施設周辺整備調整交付金事業として、各務原市が実施する各務原市ホッケー場（平成17年建設）の改修に約1億1千万円の交付金を交付しました。

本施設の人工芝は老朽化が著しかったため、大規模な大会での使用を控えてきましたが、今回の改修により、国体やインターハイなど国内最大規模の大会で使用するのに十分な規格を備えました。今年の夏には、東海地方でインターハイが開催され、本施設でホッケー競技が行われる予定です。

本施設は国内大会等の主要競技から地元のホッケークラブ活動まで活用できるよう利用環境が充実しており、市内外を問わず、競技大会や練習場として多くの方に利用されています。



### 利用者の声

球速が速くなり、ハイレベルな練習、試合ができるようになりました。



凸凹がなくなり、イレギュラーが減りました。とても使いやすいです。

ボールが弾かりやすくなり、ドリブルしやすくなりました。



### 各務原市とホッケーの歴史

昭和41年に、県立岐阜女子商業高等学校（現・県立岐阜各務野高等学校）に女子ホッケー部が創立され、国体やインターハイで優秀な成績を収めたことをきっかけにホッケーに注目が集まり、スポーツ少年団や、中学校でもホッケー部が創設されるようになりました。

地元からは、ホッケー女子日本代表（愛称「さくらジャパン」）に選手が多数輩出され、オリンピックにも出場を果たすなど、各務原市のホッケー熱はいっそう盛んなものとなっています。

### 市担当者の声



平成17年に造られた各務原市ホッケー場は、経年劣化によるコート内の凸凹により、イレギュラーバウンドに悩まされていましたが、今回の整備で非常に使いやすいコートに生まれ変わり多くの方に喜んでいただいています。隣接する川崎重工ホッケースタジアム（岐阜県グリーンスタジアム）と併用し、今後、各務原市で開催される大規模な大会を支えていく施設になりました。

# 東海3県の防衛産業・技術基盤

東海防衛支局では、防衛省・自衛隊が使用する装備品の調達にあたり、製造工程での審査や、最終的な完成検査を行っています。そこで、このコーナーでは我が国の防衛力の基盤となる製造会社の技術力を紹介します。

## 【リコーエレメックス株式会社】（愛知県岡崎市） ～技術革新で高品質のものづくりを追求～

リコーエレメックス株式会社は、岡崎城や大樹寺など徳川家ゆかりの観光名所がある愛知県岡崎市に位置しています。1938年、信管と掛・置時計製造を事業の柱に名古屋市南区に高野精密工業株式会社として設立され、1962年にリコー時計株式会社と改称し、1986年から現社名となりました。今年4月に創立80周年を迎えます。時代の流れとともに多くの事業が変遷を重ねる中、防衛関連事業を基盤事業として創業から着実に技術を積み重ねてきました。

これからも培ってきた技術力を受け継ぎ、さらに高め、高品質のものづくりを追求し、防衛省自衛隊活動への貢献が期待されています。

### 1 信管とともに歩む80年

リコーエレメックス株式会社の信管製造の歴史は、1924年に前身である高野時計金属製作所が設立され、掛・置時計を製造した精密加工技術から始まりました。1938年に、時計製造で培ってきた精密加工技術に着目した陸軍から民間指定工場として指定され、砲弾用信管を製造しました。その後、陸軍・海軍の管理工場として信管製造の歴史を経て、戦後の1953年、在日米軍から米軍向けの信管製造を受注し、製造を再開しています。以後、これまでの歯車の輪列機構や振り子機能といった時計製造で培った技術を生かした信管製造を行ってきました。1982年に、砲弾用電気式時限信管の研究を始め、1991年から製造を開始しました。現在は、陸上、海上、航空各自衛隊向けにりゅう弾砲、迫撃砲、誘導弾用等の各種信管を製造しています。

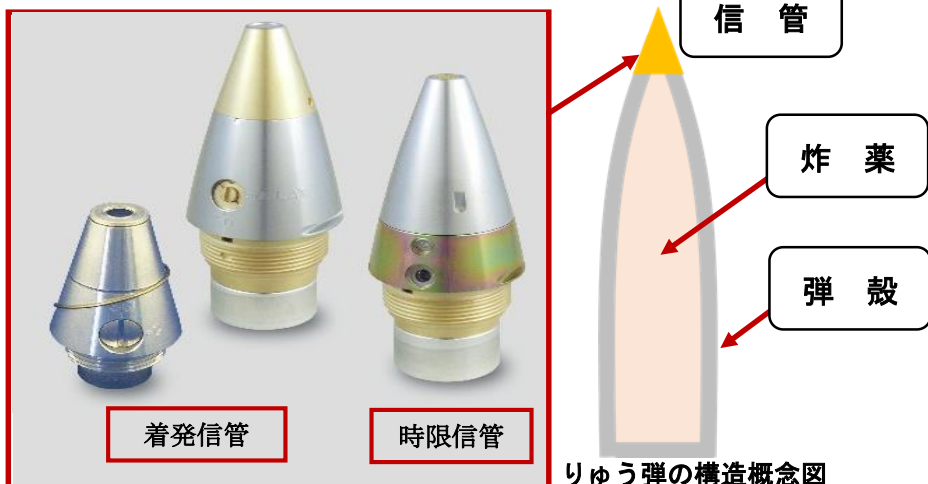


リコーエレメックス株式会社

### 2 信管の役割

信管は、弾薬構成部品のひとつで、砲弾などの弾頭又は弾底に取付け、充填された炸薬を発火させる装置です。

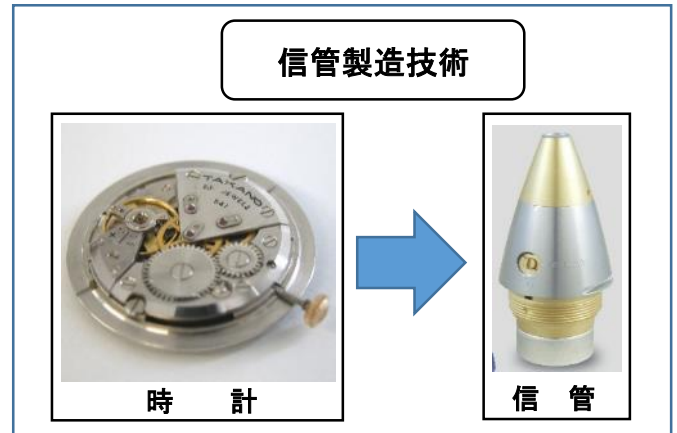
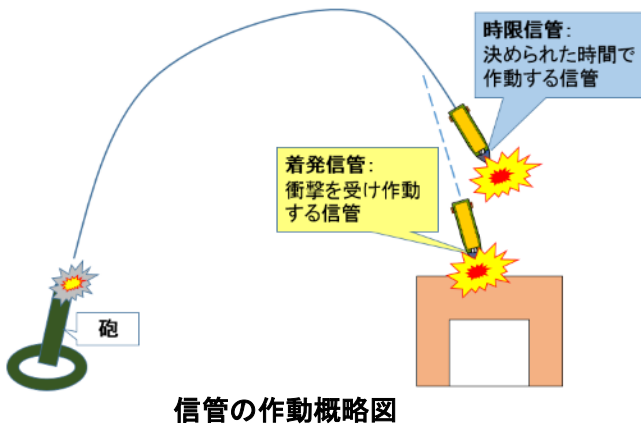
りゅう弾を例にすると、信管、炸薬、弾殻などから構成され、信管は炸薬が充填された弾殻の上部に取付けられています。



りゅう弾の構造概念図



同社では、衝撃を受け作動する着発信管と決められた時間で作動する時限信管の2種類を製造しています。信管製造には時計製造で培ってきた技術が生かされています。



毎年8月頃に陸上自衛隊で実施されている富士総合火力演習において、りゅう弾砲の射撃で富士山の形を描いています。この場面では、砲弾を設定した正確な時間で作動させなければならないため、時限信管が使用されています。



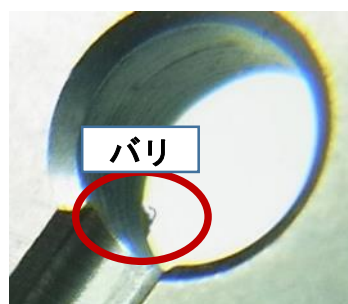
りゅう弾砲射撃で富士山の形を描いた場面

### 3 信管製造に不可欠な精密加工技術や精密組立技術

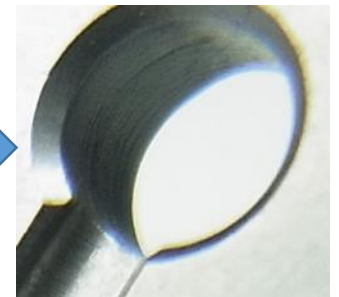
信管製造のために必要な部品の多くを、培ってきた精密加工技術で製造しています。部品ごとにミクロン単位の精密加工が求められるため、独自の加工技術や切削工具などの工夫により、1台の加工機で部品加工とバリ除去を行っています。特に、部品にバリが残っていると重大な不具合に繋がることから、バリ除去は徹底されています。



精密加工技術 (バリレス加工)



バリ加工前



バリ除去後

信管組立には、時計製造で培ってきた精密組立技術が生かされています。信管を寸分狂いなく作動させるため精密に製造された部品を確実に組み立てるため、社内で養成され、時計組立現場などで技術を積み上げてきた熟練技術者が信管組立て作業を行っています。

## NHK受信料助成の制度見直しについてお知らせ

防衛省におきましては、昭和57年から、自衛隊等の航空機の騒音により、テレビの音声が聴き取りにくくなっている地域の方々に対し、NHK放送受信料の一部を助成（防衛施設周辺放送受信事業）してきており、当支局管内では航空自衛隊岐阜基地周辺において行っているところです。

本助成制度はその開始から30年以上が経過しており、飛行場における配備機種の変更等により騒音状況が変化しているとともに住宅防音工事の進捗も図られ、聴き取りにくさの改善に努めているところです。

平成23年度には、会計検査院から指定基準を見直すなどして、透明性を十分に確保するよう意見が示されました。

さらに、国土交通省においては、住宅防音工事がほぼ完了したこと等から平成25年に本助成制度を廃止しております。

これらを踏まえ今般、次のとおり一部見直しを行うこととなりました。

- 住宅防音工事が完了した世帯については、平成30年8月31日をもって助成を終了
- 一部住宅防音工事を実施した世帯については、平成30年9月1日から助成額を半額にし、平成36年3月31日をもって助成を終了
- 事業所及び助成対象区域への新規転入者については、平成30年3月31日をもって助成を終了

※詳しい情報は、東海防衛支局のホームページをご覧ください。

### 平成30年度 事務官等採用試験の日程



試験名		受付期間	試験期日	合格発表	
国家公務員採用試験	総合職	院卒者 3月30日～4月9日	1次 4月29日	1次 5月11日 最終 6月29日	
			2次(筆記) 5月27日		
	2次 6月8日～6月15日 (政策課題討議・人物)				
	1次 4月29日				
一般職	大卒程度	4月6日～4月18日	2次(筆記) 5月27日	1次 7月11日 最終 8月21日	
			2次(人物) 5月29日～6月15日		
	高卒程度	6月18日～6月27日	1次 6月17日		1次 10月4日 最終 11月13日
			2次(人物) 7月18日～8月3日		
			1次 9月2日		
			2次(人物) 10月10日～10月19日		

※詳しい情報は、人事院及び防衛省のホームページをご覧ください。

### 新着任者紹介

	<p><b>次 長 (装備担当)</b> 1等陸佐 塚本 義明 平成29年12月1日着任</p> <p>略 歴 武器学校第2教育部長 (土浦) 幹部学校学校教官 (目黒) 第12後方支援隊長 (新町)</p>		<p><b>装 備 課 長</b> 2等空佐 藤井 克彦 平成29年12月8日着任</p> <p>略 歴 第2術科学校整備部長 (浜松) 北空司令部総務課長 (三沢) 第4高射群副司令 (岐阜)</p>
--	--	--	---

### 定年退職者紹介

	<p><b>定年退職者</b> 装備課長 1等空佐 峯 量</p> <p>在任期間 27年 8月 29年 12月</p>	<p>峯1佐からの挨拶</p> <p>東海3県の皆様には長い間大変お世話になりました。</p>	<p>東海防衛支局 〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸2-2-1 名古屋合同庁舎第1号館 電 話 052-952-8212</p> <p>東海防衛だより 2018年春号 (通巻第34号) 平成30年2月28日発行 <a href="http://www.mod.go.jp/rdb/tokai/">http://www.mod.go.jp/rdb/tokai/</a></p>	
--	--	---	---	---